

子 産 (五)

古今評林 上

山 岡 利 一

子産の同時代より近代に至るまでの片言隻句から長篇の議論に至るまで子産に関係のあるものを蒐輯したものである。これを古今評林と名ける。

孔子

一、左伝子産献捷於晉

仲尼が子産の答を評して言うには、「物の木に書いてある。「言は志を成し、文は言を成す」と。言わねば志が人に知られず、言っても文字の助けが無ければ、遠くには広まらぬ。晉は覇者で、鄭は陳に攻め入った。よほどの申開きでなくては、役に立たない。ことばを慎まねばならぬよ」

仲尼曰志有之言以足志文以足言不言誰知其志言之無文行而不遠(注)言為伯鄭入陳非文辭不為功慎辭哉(魯襄公二十五年)

二、左伝子産不毀鄭校

仲尼が子産のことばを聞いた時、言うには「これで分るが、いく

ら子産を不仁の人だという者があっても、わたしは信じない」
仲尼問是語也曰以是觀之人謂子産不仁吾不信也(魯襄公三十一年)

三、左伝子産平丘爭承

仲尼が子産を評して言う「此の会合では、十分に国の土台を固めることが出来た。詩に「(注)樂しめる君、邦のもとい、」とあるが、子産は洵に(民のため)樂しみを願う君子である。」又斯うも言う「諸侯を会合させて貢納のことを取り定めるのは礼に適っている」

仲尼謂子産於是行也足以為國基矣詩曰樂只君子邦家之基子産君子之求樂者也且曰合諸侯要貢事礼也(魯昭公十三年)

四、左伝子産臨終遺囑

仲尼評して言う「余くだ、政治寛なれば、民は侮り、つけ上がれば、烈しく取締らねばならず、烈しくすれば、民もむごくなり、

むごくなれば、政治を緩めて寛大を示さねばならぬ。緩くして烈しさを補い、烈しくして緩やかさを補い、政治はこれで調整される。(注四) 詩に

民は苛政に疲れたり

今、暫く休ません

此の中国を恵みなほ

四方の国人 安らがむ

とある通りである。政治を弛めて民を恵むのである、詭人随人(巧み取)に志を得させず。悪人を糾攝してびりっとさせ、式しきで寇虐(法を弛し人)を戒めて、お前は明法(天の明威)を畏れないのか。というは、政治を厳しくして民を正すこと。また、遠き国人を和げ、近き京師の人はその所を得させ、周の天下を安定せよという戒めである。そして詩に、(注五)

競うな

林はやぐな

剛たけからず

柔なやかからず

まつりごと和らかに

百千もろもろの福祿ここに集まる

とあるのが、調和した政治の極みである。さて子産が逝去した

時、仲尼はそれを聞き涙を流して言った。「あの人は昔ながらの愛を知っていたのだ」

仲尼曰善哉政寬則民慢慢則糾之以猛猛則民殘殘則施之以寬寬以濟猛猛以濟寬政是以和詩曰民亦勞止汙可小康惠此中國以綏四方施之以寬也毋緩施隨以謹無良式遏寇虐慘不畏明糾之以猛也柔遠能邇以定我王平之以和也又曰不競不綽不剛不柔布政優優百禄是迺和之至也及子産卒仲尼聞之出涕曰古之遺愛也(魯昭公二十年)

五、論語子綽子産

君子の道に四あり、其の己を行うに恭(謙遜)其の上に乗るに敬、其の民を養うに恵、其の民を使うに義。(總論章有り上下服有り、田に對禮有り虎井に儀有ること)有君子之道四焉其行己也恭其事上也敬其養民也惠其使民也義(公治長第五)

六、論語子曰

君命を行うに、裨諶が之を草創し、世叔之を討論し、行人(儀を掌る)子羽之を修飾し、東里の子産は之を潤色する。(色沃を)子曰為命裨諶草創之世叔討論之行人子羽修飾之東里子産潤色之(憲問第十四)

七、論語或問子産

或る人が子産のことを尋ねたとき、孔子は恵人なりと答えられた。

或問子產曰惠人也（憲問第十四）

八、禮記子日

子產は恰も衆人の母の如き人である。能く民を養うも教うることも出来る（その意は世間一般の母は子を養うことを知るも教うることを知らず、子産の民におけるも亦同様である。思うに礼に中らざるものである）

子曰子産猶衆人之母也能食之不能教也（仲尼燕居）

九、孔子家語

子貢孔子に問うて言う、今の人臣孰れを賢と為すかと。孔子、吾未だ識らずと。往者に齊に鮑叔あり。鄭に子皮あり、則ち何れも賢者なりと、子貢言う然らば齊に管仲無く、鄭に子産無きかと。

子言うに賜よ汝ただに其の一を知って未だ其の二を知らず、お前は力を用うる（自分の力を為すこと）者を賢者とすることを聞きたるか。賢者を進むるものを賢者と為すか。子貢言うに賢者を進めるこそ賢者である。孔子言う然り。吾は鮑叔が管仲を進め、子皮が子産を進めたことを聞く。未だ管仲子産が自分の才能に賢れる者を進めたるを聞かずと。

子貢問於孔子曰今之人臣孰為賢子曰吾未識也往者齊有鮑叔鄭有子皮則賢者矣子貢曰然則齊無管仲鄭無子産乎子曰賜汝徒知其一未知其二也汝聞用力為賢乎進賢為賢乎子貢曰進賢賢哉子曰然吾聞鮑叔

達管仲子皮達子産未聞二子之達賢己之才者也（賢君第十三）

一〇、說苑臣術篇（大略相同孔子家語賢君）

一一、孔子家語

子貢孔子に問うて言う、夫子の子産晏子においては敬の至りと謂うべきである。敢て二大夫の為すところと夫子の之に興みするものとを問うと。孔子言う、それ子産の民においては（注八）惠民の主で、（注九）学においては博物で、晏子の君においては忠臣で、行為においては（注十）恭敬である故に吾皆兄をもって之に事えて愛敬を加へたと。

子貢問於孔子曰夫子之於子産晏子可謂至矣敢問二大夫之所自為夫子之所以興之者孔子曰夫子産於民為惠主於學為博物晏子於君為忠臣於行為恭敬故吾皆以兄事之而加愛敬（辯政篇）

羊舌肸

左伝子産壞晉館垣

叔向が言うに、「言葉遣いが大切なのはこれ程だ、子産が言つて諸侯助かり、如何にしても言葉遣いを重んぜねばならぬ。

叔向曰辭之不可以已也如是夫子産有辭諸侯頼之若之何其積辭也（襄公三十一年）

晉平公

左伝子産論晉侯疾

晉侯、子産の言を聞いていう、博物の君子なりと。

〔博物の君子とは其政
を始一実法は参術を主る神の名、孫桓は清水の神の事を知っている者〕

晋侯問子產之言曰博物君子也（昭公元年）

椒辛

左伝楚靈王公申

宋の向戌・鄭の公孫僑あり、諸侯の良なり。

〔諸侯の良とは諸侯の良臣で宜しく
之に問うべき臣である〕

宋向戌鄭公孫僑在諸侯之良也（昭公四年）

晏嬰

左伝鄭罕虎如齊

鄭の罕虎が齊にゆき、子尼の処から娶った。その時晏子が驟々罕

虎に会う。陳桓子が故を諷くと「あの人（子産）は善人を用いた。

洵に民を養う大臣なりと。

鄭罕虎如齊娶於子尼氏晏子驟々見之陳桓子問其故対曰能用善人民

之主也（昭公五年）

子貢

後漢書陳寵伝注（郭陳列伝第三十六）

臧孫は魯の大夫、猛政を行う、子貢は之を非って言うに一体政は

猶若瑟を張るようだ。大絃急なれば小絃絶ゆ、だから罰得なば奸

邪止み、賞得なば下、欲悦するといふ。子が民の心を服うことは明

らかである。誰子産の鄭に相たるを問わぬか。賢者を推し有能者

を登用し悪を抑え、善を掲げた。大略ある者は人の短所を問う所

でなく厚德有る者に小欠点は問わない。家に人、多からしめば獄

舎は空虚となる。子産卒去した時、國人皆心崩流涕すること三ヶ

月間に及ぶ。笙琴の音をも聞かず、其の生前には愛慕され、死後

悲しまれた。だから徳、仁より大なるなく、禍は苛刻より大なるは

ないと云う。今子病みて人賀し、子の病愈えて（愈は癒と同じ）

民は互に懼る、嗟乎、何の命か善くないものがあるうか。子もま

た死すまいという。臧孫愆じて位を避けて生漚出仕しなかつた。

臧孫魯大夫行猛政子貢非之曰夫政猶張琴瑟也大絃急則小絃絶矣故

曰罰得則奸邪止賞得則下欲悦子之賊心見矣獨不問子産之相鄭乎推

賢者能抑惡揚善有大略者不問其短有厚德者不非小疵家給人足困

空虚子産卒國人皆叩心流涕三月不聞琴瑟之音其生也見愛死也可悲

故曰德莫大于仁禍莫大於刻今子病而人賀子愈而人相懼曰嗟乎何命

之不善于又不死臧孫愆而避位終身不出見新序（郭陳列伝第三十六

陳寵伝注）

孟子

孟子離婁下

孟子曰く、恵（私の恩を施して人に利益を与ふることを謂ふ）にして政を為すを知らず。歳の

十一月に徒柱（徒歩で登る）成り、十二月に輿梁（水を通ずる橋）成る。民未

だ渉るを大儀と思わぬ。君子は其の政を公平にやったら、行く

のに人を辭（おとが）くも（通行人を左右に押除けてもよい）。

どうして人人に之を濟すことを出来ようか。だから政を為す者が人毎に之を悦ばしむれば日も亦足りない。と。

子産聽鄭國之政以其乘輿濟人於溱洧孟子曰惠而不知為政歲十一月徒杜成十二月與梁成民未病涉也君子平其政行時人可也焉得人人而濟之放為政者每人而悅之日亦不足矣(孟子離婁下)

晏子

晏子は功用の臣なるも子産に及ばない。子産は恵人なるも管仲に及ばない。

晏子功用之臣也不如子産子産恵人也不如管仲(大略篇)

一、二、呂氏春秋

鄭簡魯哀(鄭の簡公は子産を用いた魯の哀公は孔子を用いた)を民の誹謗に當らしめて、彼を用いなければ、國は必ず成功せず、子産孔子も能くすることがなかつたであろう。徒に能くすることができないのみならず、たとえ罪を民に施しても納得したであろう。今恃簡公哀公を称して賢者となし、子産孔子を称して能者とすは此の二君の人に任ずるに然違っていたからである。舟車の始めて見みるるや、三世経て後、之に安心して用うることができた。それ善を聞くことは容易のことであろうか。だから衆民の誹言を聞けば万事なるなく、事の成功は独り人主の賢なるためである。

非徒不能雖也罪施於民可也今世皆稱簡公哀公為賢稱子産孔子為能此二君者達於任人也舟車之始見也三世然後安之夫開善豈易哉故聽無事治事治之立也人主賢也(梁成篇)

一三、列子

子産鄭に相となる。國の政を専らにすること三年、善者は其の化に服し、悪者は其の禁を畏れ、鄭國よって治まり、諸侯之を懼る。

子産相鄭專國之政三年善者服其化惡者畏其禁鄭國以治諸侯懼之

(揚朱篇)

一四、韓非子

鄭の簡公子産にむかつて言う、「國小、荆晉の間に迫っている。

今城郭全からず、兵甲備らず、不慮の事態に対処することが出来ない。」と。子産は「其の外を閉するや(其の辭をもつて行地の素規を止めて)すでに遠く、其の内を守るや(政を移め民を覆つて目強の頭を立てること)すでに固く、たとえ小

國でも猶ほ危からず君憂うるなかれと。」言う。かよりのわけで簡公の身の終るまで患がなかった。子産鄭に大臣になった。簡公子産に向つて言う。「酒を飲めども楽しくなく、俎豆大きくなく、鐘鼓竿瑟鳴らないのは寡人の事でない。國家定らなく、百姓治らなく、耕職の輯睦しないのは子の罪である。子産有り寡人も亦職

有り、各自其の職を守ろう」と。子産退出した。政を為すこと五年、國に盜賊なく、道に遺ちちたる拾ひろうなく、桃棗街に監おさえども

盗るものなく、錐刀道に遺^ゆとすも三日にしてもとにもどる。

鄭簡公謂子産曰「國小迫於刑首之間今城郭不完兵甲不備不可以待不虞異子産曰臣閉其外也已遠矣而守其内也已固矣雖小國猶不危之也君其勿憂是以沒簡公身無患子産相鄭簡公謂子産曰飲酒不樂俎豆不大鍾鼓箏瑟不鳴寡人之事也。國家不定百姓不治耕戰不輯雖子之罪子有職寡人亦有職各守其職子産退而為政五年國無盜賊道不拾遺桃棗陸於街者莫有拔也錐刀遺道三日可反(外儲篇)

一五、尸子

鄭の簡公子産に向つて言う「飲酒して楽しむなく、鍾鼓の鳴らないのは寡人の任である。國家に義なく、朝廷理^{まつら}らない、諸侯と交り志を得ないのは子の任である。子産人の楽に入るなく、寡人子の朝に入ることなし」と、これより以來、子産鄭を理め、城門閉さず、國に盜賊無く、道に餓人なし。孔子言うに鄭簡公の楽を好むが如く。鍾を抱いて朝するも可なり」と。

鄭簡公謂子産曰飲酒之不樂鍾鼓之不鳴寡人之任也國家之不義朝廷之不理与諸侯交不得志子之任也子無人寡人之樂寡人無入子之朝自是以來子産理鄭城門不閉國無盜賊道無餓人孔子曰若鄭簡公之好樂也雖抱鍾而朝可也(君治篇)

一六、史記卷一百十九

子産相たること一年、豎子戲狎せず(無遠慮なことをせず) 斑白なる

者提挈せず儻子狎せず。二年、市に賈を予めせず、三年、門夜閉さず、道に遺たるものを拾わず、四年、田器持ち帰えらず。五年、士に尺籍(軍簿の規則) なし。喪期令せずして治まる。鄭を治めること二十六年にして死す。壯丁号哭し、老人兒の如く啼きて言う「子産死す、我も死なむ、民まさに安^{やす}くに帰せむ」と。

子産為相一年豎子不戲狎斑白提挈儻子不狎二年市不予賈三年門不夜閉道不拾遺四年田器不歸五年士無尺籍喪期不令而治治鄭二十六年而死壯丁号哭老人兒啼曰子産去我死乎民將安歸(循吏列伝第五十九)

一七、孔叢子

臯子、子思に問うて言う、「吾、声を同じうする者は相好むと聞く子の先君、子産の時に見^まわれなば之に兄事したる。世人子産を仁愛といい、夫子を聖人と稱している。これ聖道の仁愛に事うるの謂いか。吾未だその人の孰か先、孰か後なるを論らない。だから子に質す」と、子思言う「然り、子の問いや、昔季康子、子游に問うも亦、子の言の通りである」と。子游答えて言う「子産の仁愛を以つて夫子に譬える。それは猶、没水の背雨(作物をうるはして) におけるがごときか」と。康子言う「子産の死するや鄭人の大夫抉^{くつ}佩(佩はおびだま、佩の形をして) を合て婦人珠頭(みみだま) を合て、悲哭すること三ヶ月、箏瑟作らず、夫子の死するや吾未だ魯人の

是の如きを聞かない、なんの故か」と。子游答う「それ浸水の及ぶ所ならば生き、その及ばざる所ならば死ぬ。民皆これを知る。

膏雨の生かす所である。広大なることこれより大なるはなく、民の賜（恵）を受くるや、その由りて来るところを識るものなし。

上徳（高上の徳）安徳かようなわけで徳なし」と。季孫「善し」と。子「さよう」と答えた。

縣子問子思曰吾聞同聲者相好子之先君見子産時則見事之而世謂子産に愛稱夫子聖人は謂聖道事に愛乎吾未論其人孰先孰後也故實於子子思曰然子之間也吾季康子問子游亦若子之言也子游答曰以子産之仁愛譬夫子其猶浸水之与膏雨乎康子曰子産死鄭人丈夫含珠佩婦人含珠頰悲哭三月箚瑟不作夫子之死也吾未聞魯人之若是也又故哉子游曰夫浸水之所及也則生其所不及則死故民皆知焉膏雨之所生也広莫大焉民之愛賜也莫識其由来矣上徳家徳是以無徳季孫曰善縣子曰其然（雜訓第六）

一八、説苑

子産鄭に相となる。簡公子産に向つて言う。「内政出すなく、外政入らずな。一休、衣裘の美ならず、車馬の飾らず、女子の潔淨ならざるは寡人の醜（恥）である。國家の治まらざる、封疆（田境）の正しからざるは夫子（あなた）の醜（恥）である」と。子産鄭に相となり、簡公の身を終うるまで内、國中の乱なく、外、諸侯

の患がなかった。

子産相鄭簡公謂子産曰内政毋出外政毋入夫衣裘之美車馬之不飾女子之不潔寡人之醜也國家之不治封疆之不正夫子醜也子産相鄭終簡公之身内無國中之乱外無諸侯之患也（政理篇）

一九、韓嬰韓詩外伝

子貢大臣を問う、子貢曰「齊に鮑叔あり、鄭に子皮あり」と。子貢曰「否」齊に管仲あり、鄭に東里の子産ありと。孔子曰「管仲子産は推薦なり」と。子貢曰「然らば則ち賢を薦めるは賢より賢なるか」と。孔子曰「賢を知るは智、賢を推すは仁、賢を引くは義である。此の二者有らば、又何を加えん」と。

子貢問大臣子曰齊有鮑叔鄭有子皮子貢曰否齊有管仲鄭有東里子産孔子曰仲産薦也子貢曰然則薦賢賢於賢曰知賢智也推賢仁也引賢義也此三者又何加焉（田過卷七）

二〇、前漢書卷二十

子産を上中の仁人欄に列す。

列子産於上中仁人欄（古今人表第八）

	上上	上中	上下	中上	中中	中下	下上	下中	下下
鄭									
子産									

二一、後漢書卷七十六

子貢滅孫の猛法をそしりて鄭喬の仁政をたたえた。

子貢曰非滅孫之猛法而美鄭喬之仁政（郭陳列伝第三十六）

二二、後漢書卷七十九

同子遺愛の涕を流す

國子流遺愛之涕（王充王符仲長統列伝第三十九）

二三、三國志、蜀志

今梁益の民、咨亮を述べる者、言、猶耳に在るようで、たとえ甘棠の召公を詠じ、鄭人の子産を歌うとも遠く譬えるものなし。

非徒詠に云う子産を詠め、謂んばて兵を加へなかつたのは相を兵に近かしいからである。今梁益之民咨述亮者言猶

在耳雖甘棠之詠召公鄭人之歌子産無以過譬也 非徒詠之徒云子産詠也梁不敵加兵蜀其近之矣

（蜀志卷五）

二四、番書卷一百十四

苻堅群臣に向つて言う、王景略固よりこれ夷吾子産の儔なり。

堅謂群臣曰王景略固是夷吾子産之儔也（苻堅下第十四）

二五、文心雕龍

國僑修辭をもつて鄭を拈ぐ。

國僑以修辭拈鄭（才略篇）

二六、隨書卷五十七

年十三にて左氏伝を講じ、子産の鄭に相としての功を見て國僑の贊を作る

年十三講左氏伝見子産相鄭之功作國僑贊（列伝第二十二、薛道衡）

二七、旧唐書

一、卷九十四

その家邦を存するとは國僑の言である。

存其家邦國僑之言也（列伝第四十四）

二、卷一百一

臣聞く國賢を得るをば宝となし、臣士を擧ぐるをば忠となす。是を以つて子皮の國僑に譲る。

臣聞國以得賢為宝臣以擧士為忠是以子皮之讓國僑（列伝第五十二）

二八、史記索隱

思うに管晏列伝あり、其の國僑羊舌肸等も亦古の賢大夫である、

合せて管晏の下にあるは宜しく循吏の篇に散入してはならないと

史記索隱曰按有管晏列伝其國僑羊舌肸等亦古之賢大夫合著在管晏

下不宜散入循吏之篇

（未完）

注一、足猶成也

注二、「非文辭不為功」…是語正興春秋書法符

注三、「葉貝君子邦家之基」…「詩經」(小雅)南山有台

注四、「民亦勞止…」「詩經」(大雅)「民勞」

注五、「不競不紉……」〔詩經〕（商頌）長發

注六、春秋左氏傳 莊公九年

注七、春秋左氏傳襄公三十年

注八、「成閔子產子曰惠人也」：論語憲問第十四

注九、「博物君子也」：春秋左氏傳昭公元年

注十、「其行已也恭其事上也敬」：論語公冶長第五